

福井ゆかりの教育者

はしもとさ ない
橋本左内



橋本左内については知っ
ている人も多いでしょう。

けいはつろく
「啓発録を書いた」

あんせい たいごく
「安政の大獄で処刑され
た」・・・

でも、幕末から明治にか
けて、福井出身の人がたくさん活躍したことに、左
内が大きく関わっていたことを知っていますか？

ここでは、あまり知られていない左内の功績こうせきにつ
いても見てみましょう。

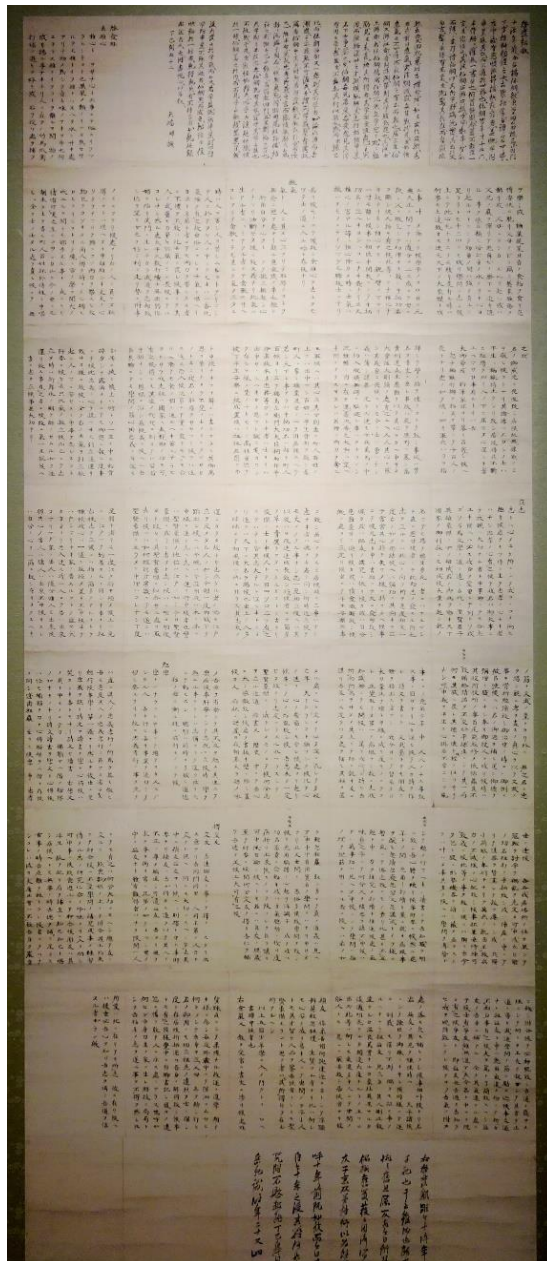
①左内の生い立ち

左内のお父さんは福井藩^{はんい}医（お城に勤めるお医者さん）でした。

幼い頃からかしこいと評判だった左内は、自分も医者になるため熱心に勉強しました。

15歳のとき、これから自分がどのように生きていくか、目標を決めて、文章にしました。

左内はこれを「啓発録^{けいはつろく}」と名付けました。



啓発録に書かれた5つの目標

- 1 稚心^{ちしん}を去る
幼い心や甘えを捨てる
- 2 氣^きを振るう
負けることを恥と考え、油断なくがんばる
- 3 志^{こころざし}を立てる
目標を定め、それに向かって努力する
- 4 学^{がく}に勉める
すぐれた人の行いを見てそれにならい、
自分も負けないうにと勉める
ものの道理や筋道を明らかにするために学問をする
- 5 交友^{こうゆう}を択ぶ^{えら}
自分の欠点や過ちを指摘してくれる人、
自分と意見の合わない人こそ、自分を正しく導いてくれる、大切な友人である

啓発録（複製）当館所蔵
（原資料 宮内庁 蔵）

②春嶽に大きな信頼を寄せられ、厚く用いられた左内

16 歳になると、左内は勉強のため、大坂に向かいました。大坂では緒方洪庵^{おがたこうあん}が先生であった適塾^{てきじゅく}という学校で、医学と蘭学^{らんがく}（オランダ、広くいうとヨーロッパの学問）を学びました。

当時の福井藩主^{はんしゅ}（殿様）松平春嶽^{まつだいらしゅんがく}は、才能があると評判が高かった左内を政治に用いるようになりました。

左内は、春嶽の指示を受けて、全国の優秀な人物たちと関係を作っていくようになりました。その中には、鹿児島^{さきごう}の西郷隆盛^{さいごうたかもり}もいました。

春嶽は日本全体の政治を考え、優秀だという評判の高かった徳川慶喜^{とくがわよしのぶ}を次の将軍候補にするよう働きかけましたが、反対の立場をとる大老の井伊直弼^{たいりゅう い いなおすけ}により、処罰^{しよばつ}を受けました（安政の大獄）。

春嶽は藩主をやめさせられ、謹慎^{きんしん}処分となりました。左内も捕らえられ、26 歳の若さで処刑されました。

③左内と教育の関係

24 歳のときから約 1 年、福井藩の武士が学ぶ、藩校明道館^{はんこうめいどうかん}で校長先生の役割となり、新しい教育を始めました。外国のすぐれた技術や文化を取り入れるため、洋書習学所^{ようしよしゅうがくじょ}をつくり、蘭学や医学などを学ばせました。

また、左内自身が適塾で学び、進んだ学問を身につけ、優秀な人々と出会って自分の力を高めた経験から、もっと学びたいと思う武士にチャンスを与えようとします。

当時、福井を出てよそに勉強しに行く（遊学といいます）場合、その費用は自分で用意しなければなりません。そこで左内は、遊学を希望する武士たちに、必要な費用の一部を藩から支払う制度を作りました。このことで、身分が低く、収入が少ない武士の子どもたちにも遊学の機会がひろがりました。

この制度は 1871（明治 4）年、廃藩置県^{はいはんちけん}で福井藩がなくなるまで続けました。遊学で学んだ多くの福井藩出身の人物が、明治時代の政府や地方の政治、教育、新しい産業のリーダーとして活躍しました。